

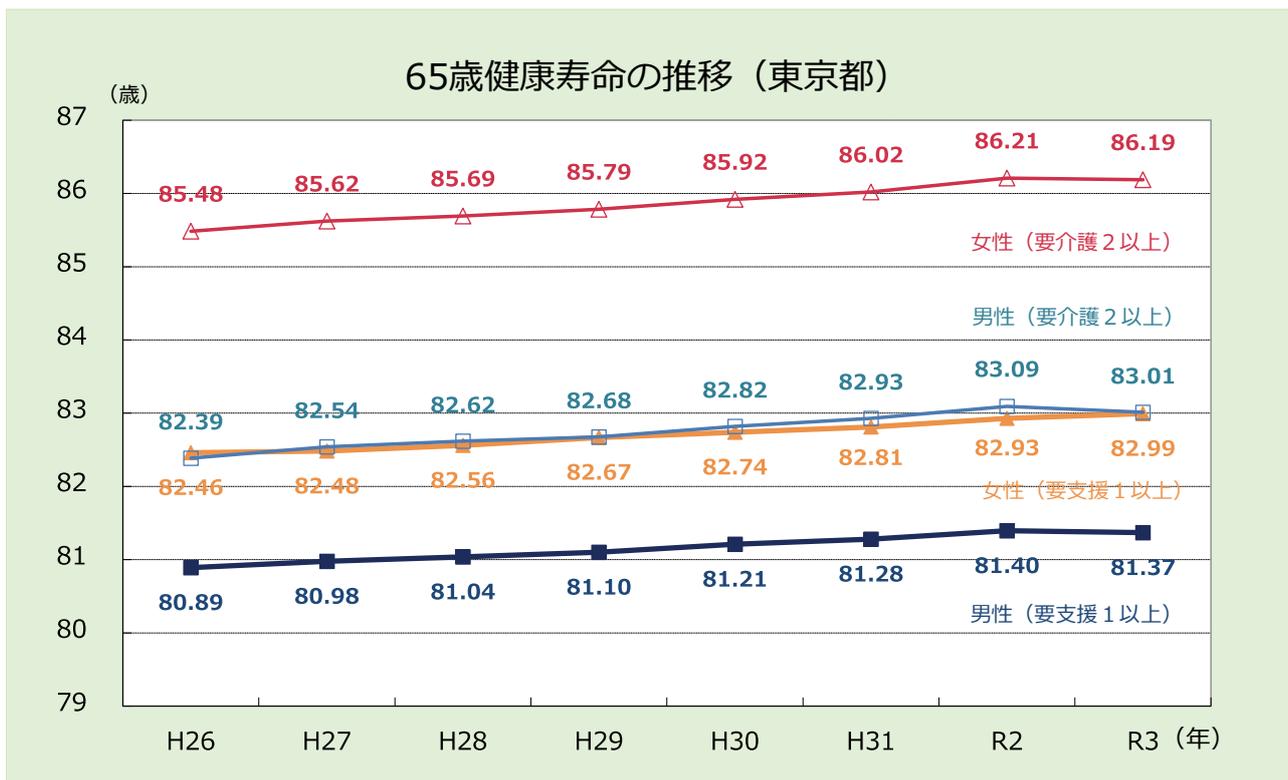
第2章

循環器病を取り巻く状況

1 都民の健康の状況

〈65歳健康寿命の推移〉

- 65歳健康寿命とは、65歳の人は何らかの障害のために介護保険の要介護（要支援）認定を受けるまでの状態を健康と考え、その認定を受ける年齢を平均的に表すものです。
- 65歳健康寿命は、男女ともおおむね延伸しており、令和3年は、要支援1以上を障害とした場合では男性81.37歳、女性82.99歳、要介護2以上を障害とした場合では男性83.01歳、女性86.19歳となっています。

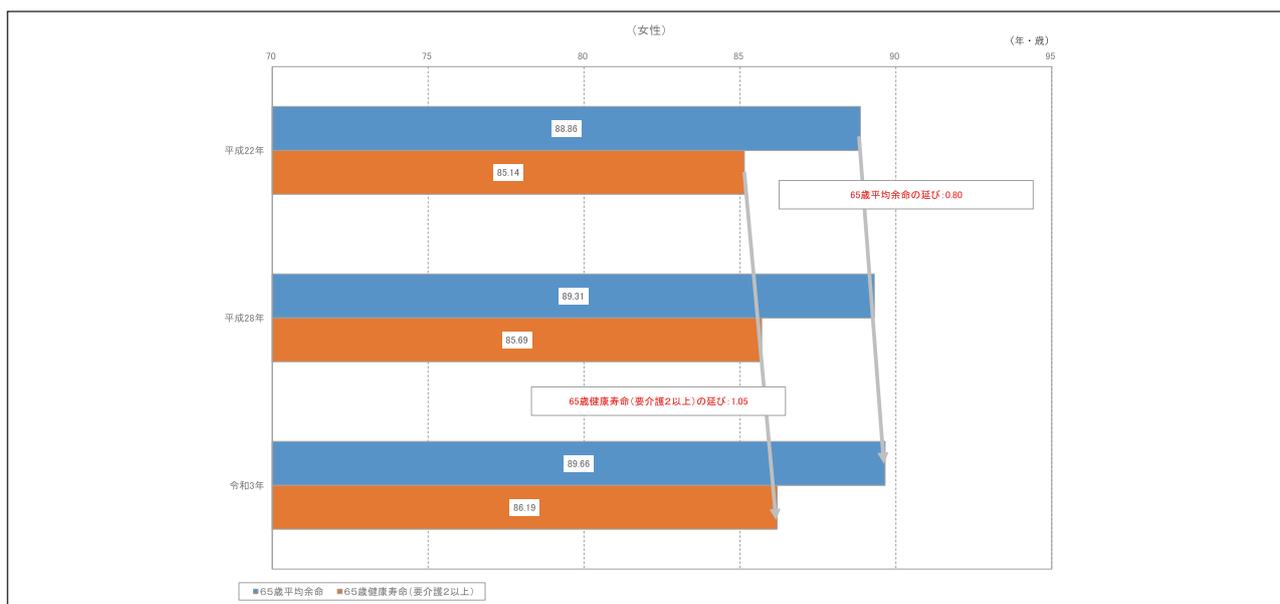
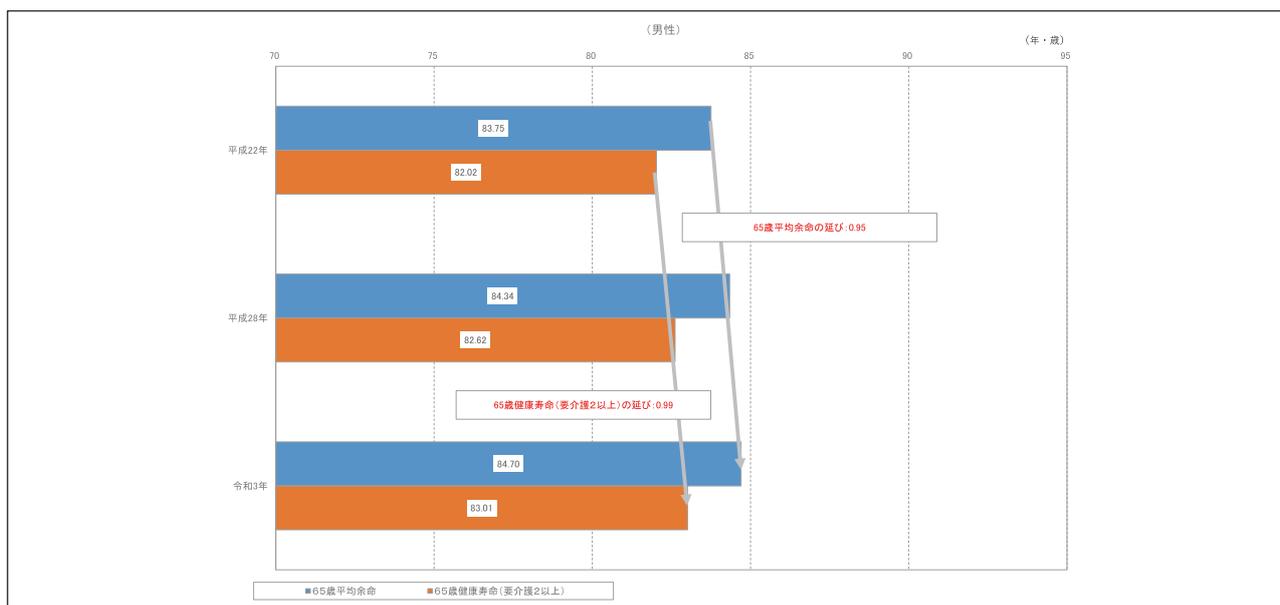


資料：「65歳健康寿命（東京保健所長会方式）」(東京都保健医療局)

〈65歳平均余命と65歳健康寿命（要介護2以上）の推移〉

- 65歳平均余命と65歳健康寿命（要介護2以上）をみると、男性は平成22年と比較して、65歳平均余命は0.95年延伸しており、65歳健康寿命（要介護2以上）は0.99歳延伸しています。女性は平成22年と比較して、65歳平均余命は0.80年延伸しており、65歳健康寿命（要介護2以上）は1.05歳延伸しています。
- 男女ともに、65歳健康寿命（要介護2以上）の増加分は、65歳平均余命の増加分を上回っています。

65歳平均余命と65歳健康寿命（要介護2以上）の推移（東京都）



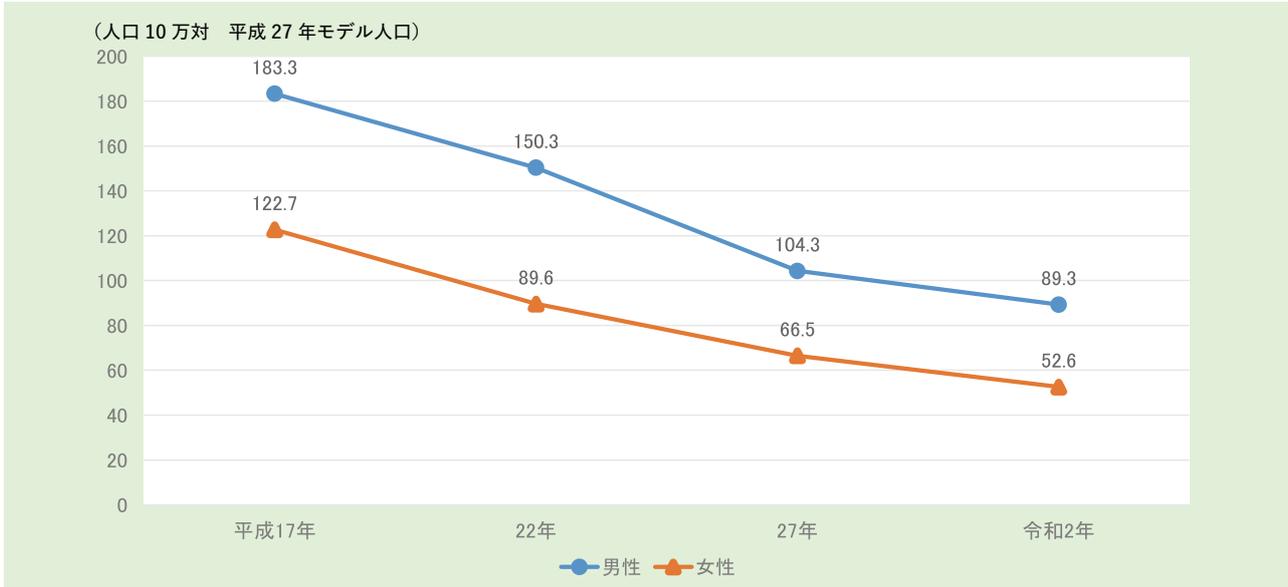
資料：「65歳健康寿命（東京保健所長会方式）」(東京都福祉保健局)

※ 65歳平均余命と65歳健康寿命（要介護2以上）の推移を比較しやすくするため、65歳平均余命は、実際の数値に65を加算した数値を用いて作図。

〈脳血管疾患による年齢調整死亡率〉

- 人口10万人当たりの脳血管疾患による年齢調整死亡率は、男女ともに減少しています。

人口10万人当たり脳血管疾患による年齢調整死亡率の推移（東京都）

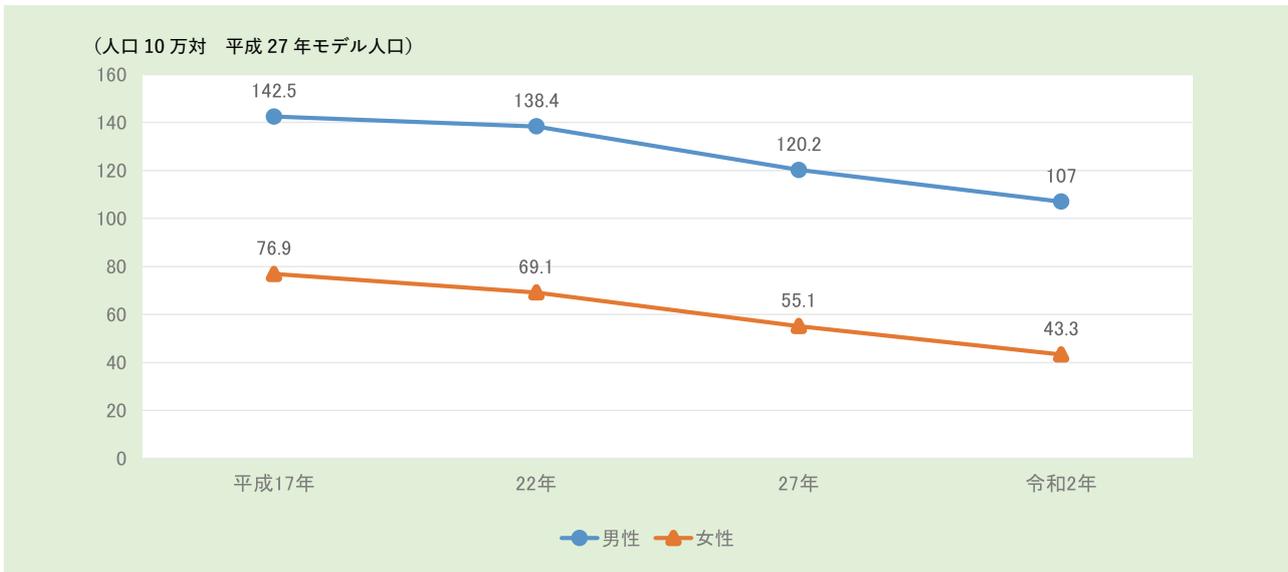


資料：「人口動態統計特殊報告」(厚生労働省)

〈虚血性心疾患による年齢調整死亡率〉

- 人口10万人当たりの虚血性心疾患による年齢調整死亡率は、男女ともに減少しています。

人口10万人当たり虚血性心疾患による年齢調整死亡率の推移（東京都）

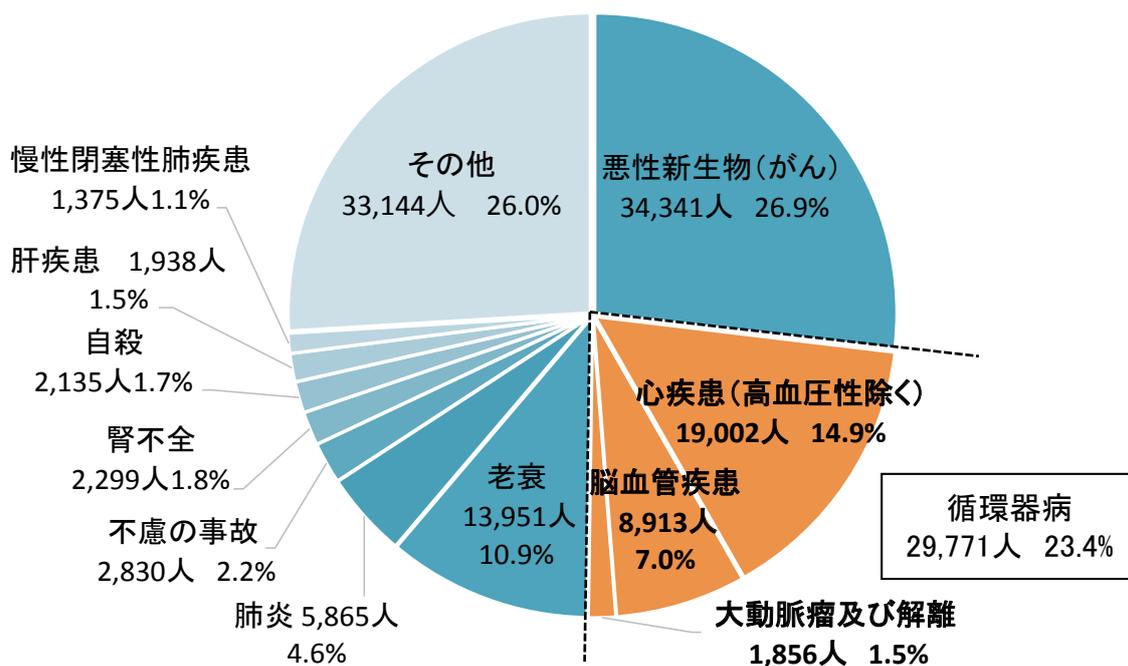


資料：「人口動態統計特殊報告」(厚生労働省)

〈死亡原因における循環器病の割合〉

- 心疾患（高血圧性を除く）の死亡者数は19,002人、脳血管疾患の死亡者数は8,913人、大動脈瘤及び解離は1,856人となっており、死亡原因における循環器病の割合はがんに次ぐ第2位で、23.4%となっています。

主要死因の割合（令和3年・東京都）

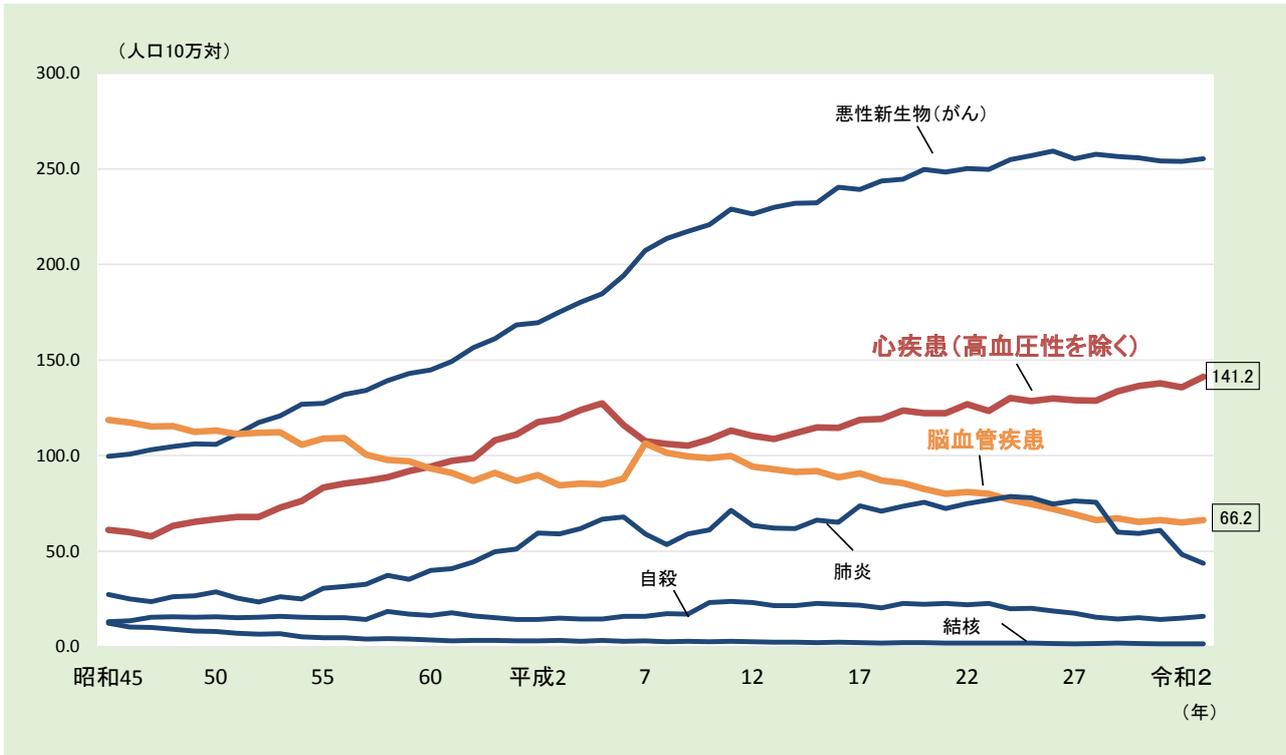


資料：「人口動態統計」(東京都保健医療局)

〈循環器病の人口10万人当たり死亡率の推移〉

- 循環器病の人口10万人当たりの死亡率を見ると、昭和45年以降、脳血管疾患は、減少傾向にある一方、心疾患は、増加傾向となっています。

主要死因の人口10万人当たり死亡率の推移（東京都）



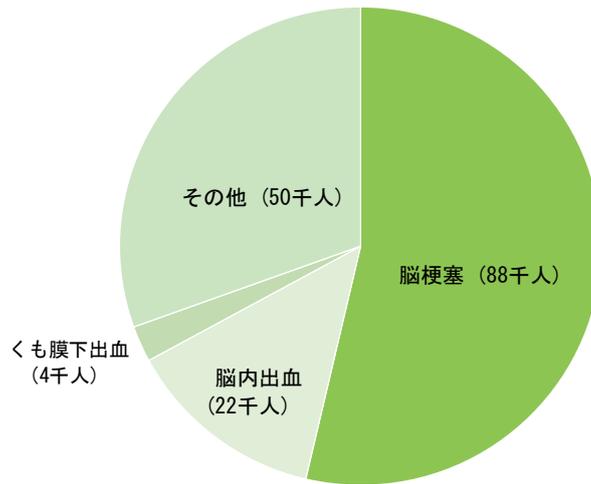
資料：「人口動態統計」(東京都保健医療局)

2 循環器病の患者数

〈脳血管疾患総患者数内訳〉

- 都における脳血管疾患の総患者数は約16万人で、そのうち脳梗塞が約8万8千人、脳内出血が約2万2千人、くも膜下出血が約4千人となっています。

東京都の脳血管疾患総患者数内訳（令和2年）

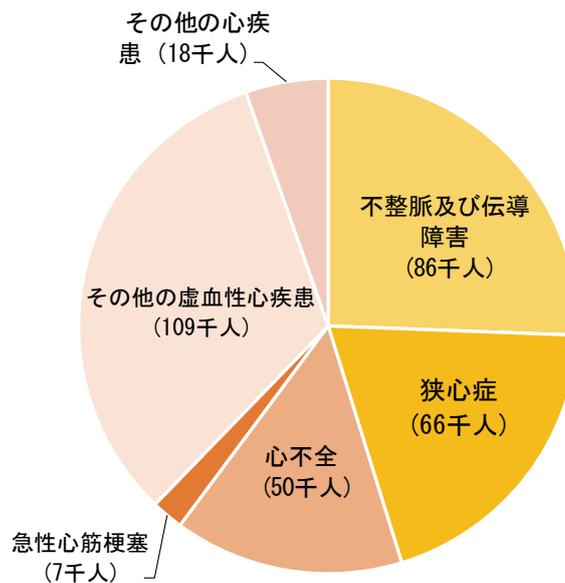


資料：「患者調査（令和2年）」(厚生労働省)

〈心疾患（高血圧性のものを除く）総患者数内訳〉

- 都における心疾患の総患者数は約26万9千人で、そのうち狭心症が約6万6千人、心不全が約5万人、急性心筋梗塞が約7千人となっています。

東京都の心疾患総患者数内訳（令和2年）

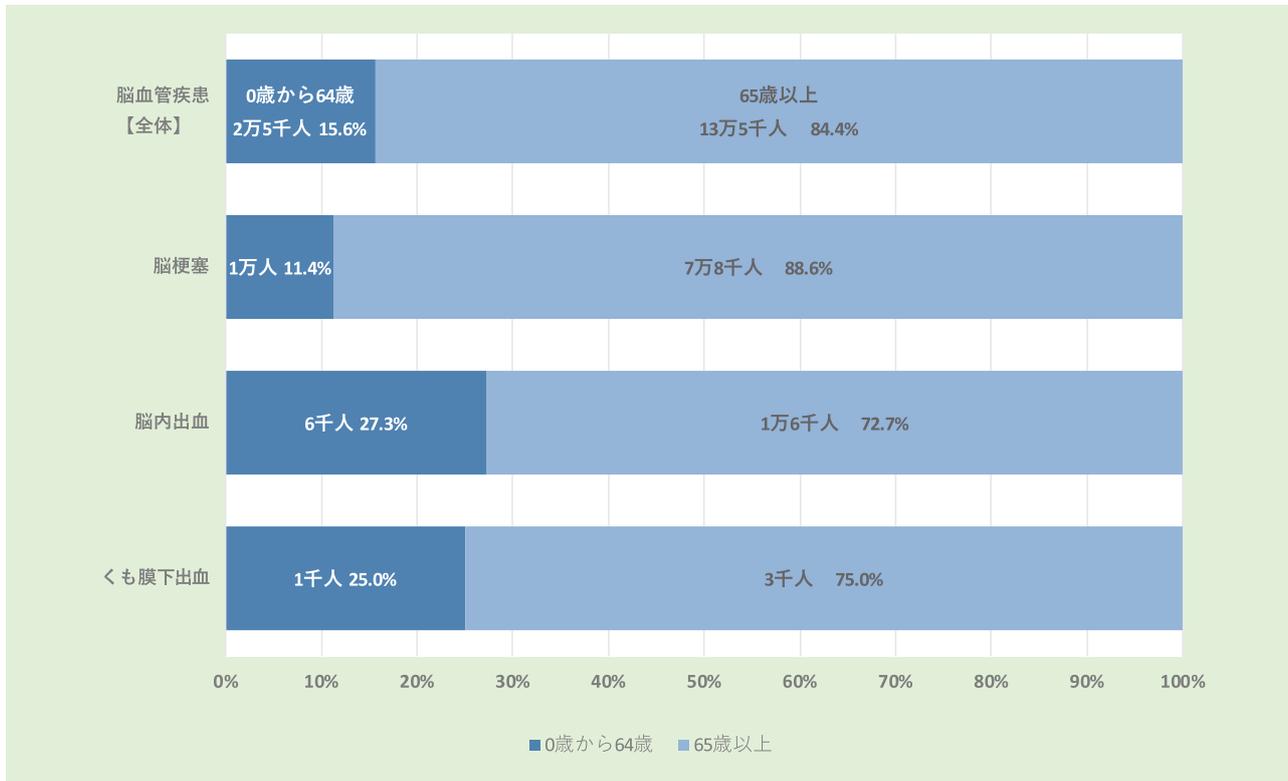


資料：「患者調査（令和2年）」(厚生労働省)

〈年齢構成〉

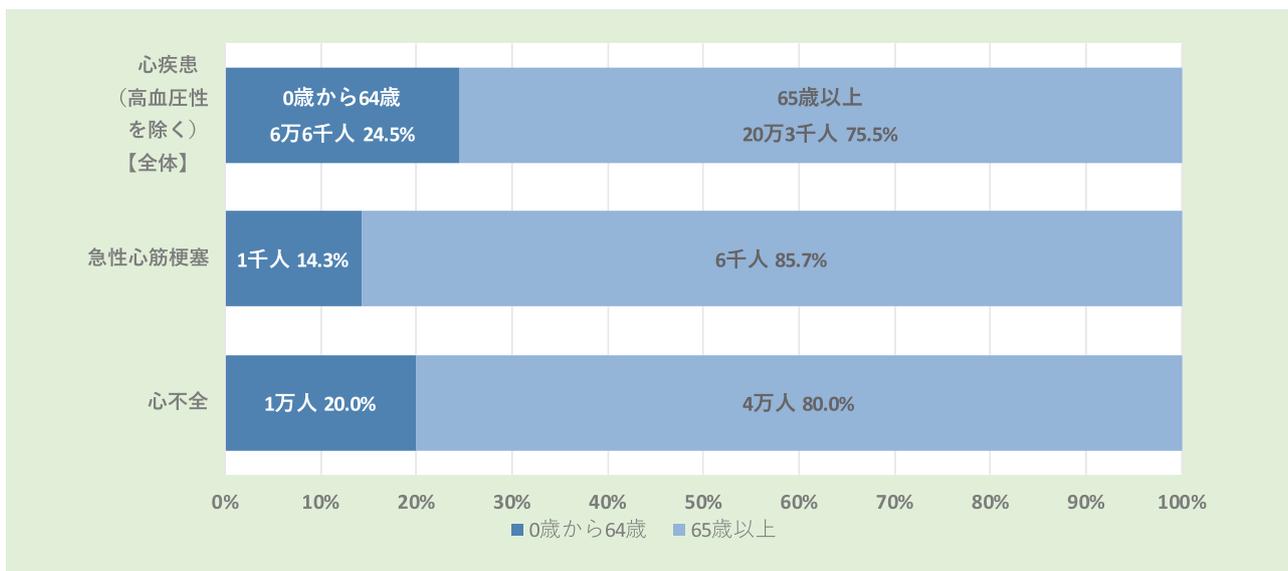
- 脳血管疾患患者の84.4%、心疾患患者の75.5%が65歳以上の高齢者となっています。

脳血管疾患患者の年齢構成（令和2年）



資料：「患者調査（令和2年）」（厚生労働省）

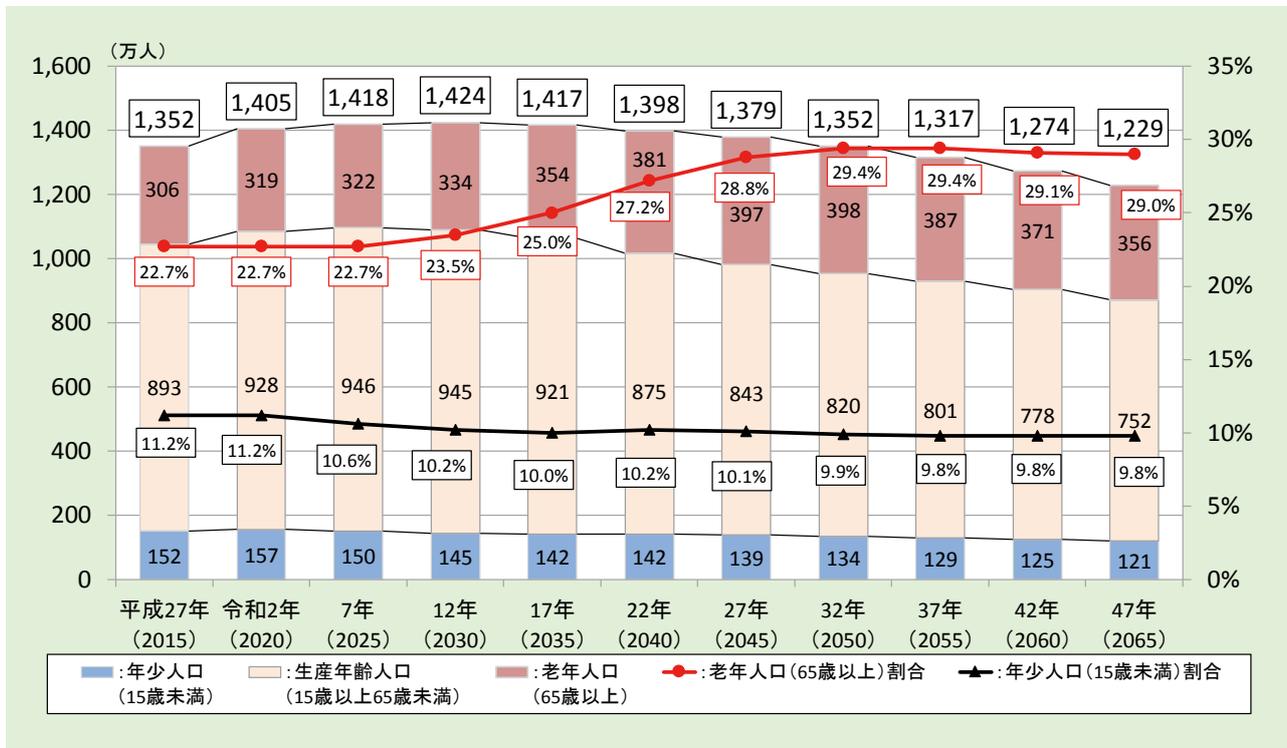
心疾患患者の年齢構成（令和2年）



資料：「患者調査（令和2年）」（厚生労働省）

〈人口の推移と将来推計〉

- 東京都の総人口は、2030年1,424万人でピークを迎え、以後減少し、2065年には1,229万人となることが予測されています。年少人口は2020年、生産年齢人口は2025年まで増加し、以後減少へ転じる見込みです。
- 老年人口は2015年の306万人（高齢化率22.7%）から、2050年に398万人（同29.4%）へ増加し、都民のおよそ3人に1人が65歳以上の高齢者という、極めて高齢化の進んだ社会が到来することとなります。
- 循環器病患者については、約8割を65歳以上の高齢者が占めており、今後も高齢化に伴う循環器病患者の増加が見込まれます。

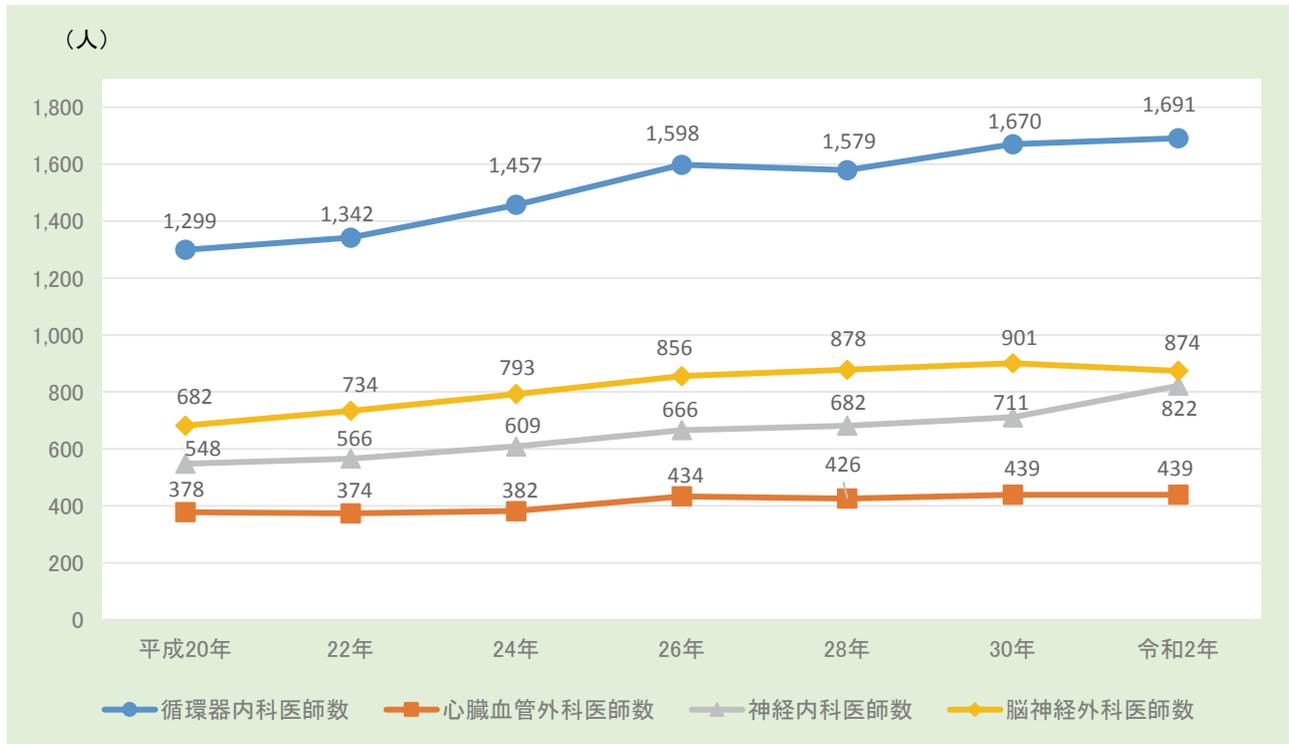


資料：「2065年までの東京の人口・世帯数予測について」(東京都政策企画局)

3 循環器病の治療に関わる医師の状況

- 循環器病の治療に関わる主な医師数は、全体として、増加傾向にあります。

東京都の循環器病に関わる主な医師数推移



資料：「医師・歯科医師・薬剤師統計」(東京都集計結果報告)